

水産海洋研究会報第16号

平均体長 F68(20.8) Sei 48(14.5) Mi 27(8.2)

又生産品は次の通りである。

	生 産		ミンク	
	B. W. U.	総 計	一頭当	総 計
鯨 油	2 0.3 4	8 9 4 0. KT	0.2 0	8.2 KT
冷 凍 品	5 3.1 2	2 3 3 4 4.3 "	1.5 2	6 2.2 "
塩 蔵 品	1.7 1	7 5 0.3 "		
ヒ ゲ	0.0 7	3 0.0 "		
計	7 5.2 3	3 3 0 6 4.6 "		

操業時の海況の内操業不適の比率は次の如くなる。

	風力7以上	視界3'以下	
1 2 月	3 5.7 %	4.8	= 4 0.5
1 月	1 2.9 "		= 1.2 9
2 月	3 2.8 "	0.8	= 3 3.6

質 疑 応 答

(宇田) どの付近にサンマがいたか。

(荒井) 43°~48°S付近の40~50哩範囲ではなかつたかと思う。

(土井) サンマはチリー沖にもいた。

(飯田) フォークランドNE、ニュージーランド東西両水域の50°S付近にまでサンマがみられたが、亜南極水域に帯状に分布しているのではないか。

2 1968/69年度南極洋捕鯨操業結果について

斎 藤 真 人

(大洋漁業株式会社)

母船第8日新丸は昭和43年11月21日正午横須賀港出帆スダ海峡經由南氷洋漁場に向けた。冷凍船2隻と捕鯨船6隻は同22日出帆、之より先、南アフリカ經由にて4隻フリーマントル經由にて4隻夫々東向及西向に先航調査させたが母船の出帆が予定より2週間遅れたので当初の計画を変更して東経85度の漁場に向け12月12日漸やく漁場着操業開始することが出来た。

今次南鯨は大洋久し振りの一船団、捕獲枠B. W. U. 613頭で出漁した。操業漁場は昨年と略同

じで東経49°(クローゼット西側)から東経100°の間で長須892、鯧鯨1001頭を捕獲  
3月13日終了した。操業日数92日

操業の経過を漁場別に分けて述べる

(1) 80°E 鯧鯨漁場

昨年初期に実績の海区で操業開始したが鯧鯨の資源は昨年に比し大巾に減少し新入りも余り多  
くなかつた。水温は比較的高いのに回遊は遅れていたが大型の鯧鯨で割合脂肪も乗っていた。

今年の中緯度高気圧が例年になく北に偏していたが強風の日多く操業困難であり新入りも少く  
なつたので28日より西向き移動操業とした。

12月12日～28日 捕獲 F24 Sei447

(2) ケルゲレン漁場Ⅰ

12月30日ケルゲレン島北側を操業小型混りの長須鯨で脂肪も少い。ローカルな溜り鯨なの  
で忽ち尽きてしまった。此の頃80°E南漁場にて調査船長須鯨の発見あつたので船団は南下を始  
め、1月2日はハード島北側の鯧鯨漁場を操業したが発見極めて少く資源の減少が判然と見られた。

12月29日～1月2日 捕獲 F48 Sei14

(3) 80°E～95°E(52°S～58°S)長須漁場

80°E漁場昨年同様安定した長須漁場を形成し、53°Sより南に続いた。

1月3日より南向き操業したが、2回南丸及ロシア号船団と競合となつた為8日には漁場枯れ  
た。

9日より東進90°E～100°E間にて16日迄操業したが此処は小型混りの長須漁場で特に発  
見多いわけではないが連日の好天候と、若干の新入りが続いて捕獲は延びた。然し此処も3船団  
の競合で鯧少くなり、17日より80°Eに反転し僅かな新入りを拾つて21日迄操業、鯧鯨も少  
し入っていた。

1月3日～21日 捕獲 80°E F267 Sei38  
95°E F192 Sei 1

(4) ケルゲレン漁場Ⅱ

調査船がハード島北側で鯧鯨発見あつたので22日より移動したが、漁場は極めて小範囲、新  
入りも少く、4日間にて切れ後ケルゲレン北側の漁場を3日間操業30日よりクローゼット漁場  
向け移動操業に入る。

1月22日～29日 捕獲 F9 Sei171

(5) ケルゲレン島・クローゼット島間漁場

此の間は例年余り鯧の発見ない処であつたが今年長須鯨の発見あり大型鯧も割合混つていた。  
然し歩留り向上の為長須鯨は10頭以下に制限し、又荒天の日もあつた為捕獲は延びなかつた。

1月30日～2月8日 捕獲 F54 Sei41

(6) クローゼット島北漁場

昨年に比し暖水の南下弱く漁場の熟し方も遅く、鯨資源は半減していたが長須鯨は昨年より多く、白長須(ビグミー)が増えたのが目立つた。2回南丸と競合反復操業の為忽ち漁場枯れ、新入りも少いので東側の長須漁場に移る。

2月9日~23日 捕獲 F62 Sei275

(7) クローゼット島東側より85°E(45°S~47°S)漁場

クローゼットの東側にて長須鯨発見多く小型鯨も相当混り選鯨捕獲したが此の鯨は一時的なものでその後動いて少なくなつた為東進移動操業とした。途中まだ捕獲枠の残多いので反復操業を試みたが2日目は少く資源的に多いものではなく補充はあまりない様に思われる。鯨も少し発見あつたが性質悪く捕獲困難であつた。

ケルゲレンの北を通り87°E迄水温8~10°C線に長須鯨ボツボツ続いたが特に78°E線は南からの補充があり反復操業出来た。

最後に85°Eに至り3月13日捕獲終了した。

2月24日~3月13日 捕獲 F236 Sei14

今年の操業は北側(50°S以北)に於いては暴風圏型で強風の日多く南側長須鯨漁場にては例年になく好天候に恵まれた。

此の海域に於ける資源は鯨は数年の連続操業で半減したが長須鯨は50°S以北に於いても相当発見あり資源は豊富であると見られた。

### 質 疑 応 答

(飯田) 捕獲制限はしたか。

(齊藤) 日数的には、ナガスクジラの捕獲制限が多かつた。

(飯田) 日水では、捕獲制限はどうか。

(荒井) ほとんどナガスクジラで実施した。

### 3 第23次南極捕鯨操業概要

飯 田 陸之助  
(極洋捕鯨株式会社)

22次南鯨と同じ程度に発見頭数はあつたが、ニュージーランド東方海域におけるクジラは移動が速かつた。

163°W付近では、冷水の張り出しが強く、その海域にクジラの分布密度高く、そして昨年に比較し大型であつた。なお、マグロの群にも遭遇して海がニギヤカであり、マッコウクジラも多かつた。